

四極会 寄附講義「会社研究」令和3年度 第8回目

令和3年6月9日(水) 13時10分

講師 三和酒類株式会社

代表取締役社長 下田 雅彦 氏

テーマ 大分麦焼酎「いいちこ」の歩みと挑戦



麦焼酎をはじめ、清酒、ワイン、ブランデー、リキュールなど様々な商品開発にチャレンジしている三和酒類とその主力商品「いいちこ」のあゆみ、さらには、伝統と革新のものづくりについて貴重なお話をいただきました。(オンライン講義)

〇はじめに

三和酒類という会社は、これまで必ずしも順風満帆だったわけではない。厳しい時代を乗り越えて今がある。その根底にある考え方をお示ししたい。

学生の皆さんが今後社会に出て活躍する際のなにがしかの参考になれば幸いである。

## ○会社のあゆみと私の経歴

私は、1979年大阪大学工学部醱酵工学科を卒業、兵庫県の大手清酒メーカーを経て、Uターン人材を確保するための大分県人材ファイル登録制度により、1984年10月三和酒類株式会社に入社し、製造部研究開発室長になったのがはじまりである。

2017年に代表取締役社長に就任し、翌2018年に創業60周年を迎え、2019年には「いいちこ」発売40周年と、大きな転換期にかじ取りの役回りを務めることになった。

三和酒類は四つの蔵元が集まった四人の代表取締役の共同経営による会社である。四人で取り決めをして社長を順次務め、四人がそれぞれの得意分野で役割を分担し、力を合わせて「和」の経営を行ってきた。

## ○大分麦焼酎について

- ・麦100%の麦焼酎は大分で初めて誕生した

1970年代の減圧式蒸留器の開発などを経て、麴原料も大麦、主原料も大麦であるソフトタイプの大分麦焼酎が誕生した。これは、焼酎業界のイノベーションともいえるものである。

- ・イノベーションによる市場創出：大分むぎ焼酎の急成長

このイノベーションにより、第2次焼酎ブーム(1980~1985)となり、「いいちこ」もすさまじい勢いで成長した。

- ・「大分麦焼酎」誕生と飛躍の背景

大分県は歴史的には、清酒圏であるが、焼酎圏との境界域に位置し、麦味噌で麦麴の文化がもともとあった。

また、本格焼酎の産地としては後発組であるが、その気候風土と醸造文化が強みとなり大分麦焼酎が誕生した。

- ・研究開発室設置から5年後に研究所設立

焼酎ブームが終わったとしても、三和酒類が生き残るためには、ものづくりの技術が大切である。生産量の急拡大を支える製造技術の確立のため、技術者を集め1984年に研究開発室を設置し、5年後の1989年には研究所を設立するに至った。

- ・大分県の麦焼酎は「歴史なし!文化なし!技術なし!」

このことから脱却するため、大分麦焼酎の産地化を目指し、2001年に8年間の産官共同研究の成果として、地元で収穫した大麦を原料とする本格焼酎「西の星」を開発、発売をし、今年6月で20周年を迎えた。

- ・河北秀也氏の「いいちこブランド戦略」

デザイン、広告など「いいちこブランド戦略」は、福岡県ご出身のグラフィ

ックデザイナーの同氏にいっさいまかせている。

30 歳代～40 歳代のコアユーザーを念頭に置いた広告や麴文化の蒸留酒という意味付けをした広告(いずれも日本経済新聞掲載)などの例がある。

- ・全国への販売展開は特約店におまかせする(流通戦略)

ブランド戦略と同様に、流通戦略は、全国区大手の日本酒類販売(株)におまかせしている。三和酒類=製造部、日本酒類販売=営業部というイメージである。

- ・1mmの品質向上とは：増税(価格)との戦い

いいちこ発売 40 周年を経て、「大分むぎ焼酎」が定着して来たが、新たな課題が生まれている。焼酎は安くてもうまいが売りが、売れるようになると国の方で増税するようになり、値段が上がる。それに見合う価値を乗せるためには少しでも他のメーカーよりいいものをつくるということが重要である。

- ・ブランド価値の創造

本格焼酎業界は、第3次焼酎ブームの2007年に消費数量のピークを迎え現在に至っており、減少傾向に歯止めがかかっていない。

このため、2013年から、いいちこブランドの再構築を目指し、CMで「麴プロジェクト」を表明、国内Bar市場への挑戦、BEAMSとのコラボレーションによる世代コミュニケーションの挑戦、さらには米国のコンペティションで部門最高賞を受賞するなどの世界市場への挑戦も行っている。

## ○最後に

今、まさに、混沌とした、先の見えない時代である。

創業60周年を経て、大変革の時代を迎えるに当たり、「お客様、従業員、社会にとって存在意義のある、100年愛され続ける企業へ」という将来ビジョンを再確認して、次世代につなげていきたいと思う。

これを達成するには、それぞれの得意分野、個性を生かした創業者4人「和」の経営が改めて見直されることが大切である。

ワンマンで会社を引っ張っていくのではなく、みんなの知恵を結集することが三和らしさだから。

## ○～学生の皆さんへ～ 「自己実現」を目指して

自己実現とは、自分の中に潜む可能性を自分で見つけ、十分に発揮していくこと。また、それへの欲求。

学生の皆さんには、次のようなことを大事にしながら成長してもらいたい。

### 1 自己実現を支える「宝言葉」

宝言葉とは、私の造語であり、人生において出会った宝物のように大切に

